

2017 年度 2 次試験 事例Ⅳ 解答

第 1 問

(設問 1)

	(a)	(b)
①	売上高総利益率	12.70 (%)
②	負債比率	573.47 (%)
③	売上高対販売費・管理費比率	7.09 (%)

(設問 2)

高	品	質	の	製	品	で	あ	る	が	、	価	格	が	適	正	で	な	い	た
め	収	益	性	が	低	く	、	多	額	の	借	入	で	安	全	性	が	低	い。

第 2 問

(設問 1)

(単位：百万円)

売上高	(3,879)
売上原価	(3,310)
売上総利益	(569)
販売費及び一般管理費	(270)
営業利益	(299)

計算式：

$$\text{売上高 } 3810 \times 0.6 \times 1.03 + 3810 \times 0.4 = 3879$$

$$\text{売上原価 } (3326 - 1650) \times 1.05 + 1550 = 3310$$

$$\text{売上総利益 } 569$$

$$\text{販管費 } 270(\text{変わらず})$$

$$\text{営業利益 } 299$$

[解釈 A]

(設問 2)

△244 百万円

計算式： $33 \times 12 - 60 - 210 - 370 = \Delta 244$

再来年度以降の予想営業利益	250 百万円
最低売電単価	27 円/KWh

計算式：

売上	$40 \times 33 = 1,320$	$40 \times p$
- 変動費	$(210 / 12) \times 40 = 700$	$(210 / 12) \times 40 = 700$
= 限界利益	620	370
- 固定費	370	370
= 営業利益	250	0

$$40p - 700 - 370 = 0$$

$$40P = 1070$$

$$P = 26.75 \dots 1 \text{ 円単位のため } 27 \text{ 円}$$

[解釈 B]

(設問 2)

△109 百万円

$$\text{計算式： } 33 \times 12 - 30 - 105 - 370 = \triangle 109$$

(設問 3)

再来年度以降の予想営業利益	600 百万円
最低売電単価	18 円/KWh

計算式：

売上	$40 \times 33 = 1,320$	$40 \times p$
- 変動費	$(105 / 12) \times 40 = 350$	$(105 / 12) \times 40 = 350$
= 限界利益	970	370
- 固定費	370	370
= 営業利益	600	0

$$40p - 350 - 370 = 0$$

$$40P = 720$$

$$P = 18$$

解釈が分かれる理由については 2 次本試験分析会でご説明いたします！

第3問

(設問1)

第X1年度末における差額キャッシュフロー		各年度の差額キャッシュフロー	
項目	金額		金額
税引前利益の差額	△20	第X1年度初め	△210
税金支出の差額	6	第X1年度末	76
税引後利益の差額	△14	第X2年度末	58
非現金支出項目の差額	90	第X3年度末	58
第X1年度末の差額キャッシュフロー	76	第X4年度末	58
		第X5年度末	58

計算式：

(旧機械設備)

	1年期首	1年期末	2年期末	3年期末	4年期末	5年期末
	0	1	2	3	4	5
売上(収入)		520	520	520	520	520
コスト(支出)		380	380	380	380	380
減価償却費		10	10	10	10	10
除却損						5
営業利益		130	130	130	130	125
法人税		39	39	39	39	37.5
税引き後営業利益		91	91	91	91	87.5
営業CF		101	101	101	101	102.5
投資CF(収入・支出)						△5
合計		101	101	101	101	97.5

(新機械設備)

	1 年期首	1 年期末	2 年期末	3 年期末	4 年期末	5 年期末
	0	1	2	3	4	5
売上 (収入)		580	580	580	580	580
コスト (支出)		370	370	370	370	370
減価償却費		40	40	40	40	40
除却損		10+50	0	0	0	5
営業利益		110	170	170	170	165
法人税		33	51	51	51	49.5
税引き後営業利益		77	119	119	119	115.5
営業 CF		177	159	159	159	160.5
投資 CF (収入・支出)	△200 △10					△5
合計	△210	177	159	159	159	155.5

(設問 2)

	指標名	数値 (単位)
安全性	回収期間	3.31(年)
収益性	正味現在価値	44.63(百万円)

判断	設備更新案を (採用する・採用しない) いずれかを○で囲むこと。
----	----------------------------------

計算式：

$$\text{回収期間} : 210 - (76 + 58 + 58) = 18$$

$$18 \div 58 = 0.310 \dots$$

正味現在価値：

$$58 \times (0.9346 + 0.8734 + 0.8163 + 0.7629 + 0.7130) = 237.8116$$

$$(76 - 58) \times 0.9346 = 16.8228$$

$$237.8116 + 16.8228 = 254.6344$$

$$254.6344 - 210 = 44.6344$$

第 4 問

(設問 1)

64	百	万	円	の	D	社	持	分	子	会	社	利	益	を	含	む	為	、	当	
期	純	利	益	は	赤	字	で	あ	る。											

計算式：

非支配株主損益が 16 である。D 社は D-a 社の株式を 80%保有しているため、D 社に入る利益は 64 である。

64 の利益がなくなると D 社単体は赤字になる。

(設問 2)

持	分	増	加	で	利	益	額	が	増	加	す	る	が	、	負	債	増	加	で	
安	全	性	指	標	は	悪	化	す	る。											

(設問 3)

親	会	社	の	経	営	に	関	す	る	支	配	力	が	高	ま	る	た	め	経
営	戦	略	を	柔	軟	に	立	て	る	こ	と	が	で	き	る	反	面	、	子
会	社	の	経	営	リ	ス	ク	が	親	会	社	に	及	び	や	す	い	。	